

第 47 回インナーゼミナール大会

研究計画書

ゼミ名	上島ゼミⅡ	チーム名	炭火焼肉こぐり
タイトル	日本の長時間労働の解決に向けて		
テーマ群	c)公共経済、e)産業・企業、g)その他		
メンバー			
研究計画内容	<p>日本では長時間労働の文化は未だに強く根付いており、これは働く人にとっても社会にとっても重大な問題である。2015 年 12 月に電通の社員である高橋まつりさんが長時間労働を原因としてうつ病を発症して自ら命を絶ってしまった。亡くなる前月の残業時間は月 100 時間を超えており、まともに睡眠をとることさえできなかったという。また同年、日本データサービスに勤務する男性社員が月 160 時間時間外労働を強いられ自殺した。2016 年、労働環境を原因とする自殺者数が 1978 人にのぼる（厚生労働省 平成 29 年版過労死等防止対策白書）。2011 年の 2689 人をピークに自殺者数は減少傾向にある。日本の長時間労働を規制する動きは年々強まってはいるが、世界的に「karoushi」という言葉が世界的に認められるほど日本の長時間労働による問題は深刻であるといえる。</p> <p>日本では労働基準法が存在して労働時間が細かく規制されているにも関わらず、何故このような事件が起きているのか。私たちは、まず労働時間に関する現状を調べた上で、日本と諸外国の法律の違いを説明する。次に実際に企業を訪問してインタビューを行い、現在どのような働き方改革を行っているのかを問い、そして様々な施策の効果と問題点を検討して、残業削減の成否を分けるポイントを明らかにする。最後に働く人自身が意識すべきこと、企業がこれからどのような働き方改革を行うべきか、私たちが就職活動において目を向けるべき点を整理して、この問題の解決策を提示したい。</p>		